

総裁記者会見要旨 (4月13日)

G7 終了後の尾身大臣・福井総裁内外記者会見における総裁発言要旨

2007 年 4 月 14 日

日本銀行

於・ワシントン DC

2007 年 4 月 13 日 (金)

午後 7 時 35 分から約 20 分 (現地時間)

【冒頭発言】

世界経済の現状および先行きの運営について、熱心な討議がなされました。現状については、米国経済は引き続き調整の過程にありますが、世界経済全体としてはバランスのとれた形で堅調な拡大が続いているとの認識が共有されたと思います。こうした望ましい姿を先々まで続けていくことが課題になるわけですが、いくつか重要な点について認識を共有できたと思います。まずは、金融資本市場が健全に機能し続けること、これは資源の最適配分を図っていく上で大変重要なことであり、市場の中で偏ったリスクがとられ過ぎないようにという点が、コミュニケの中でも前回に続いて改めて確認されました。そして持続的成長が長期的課題でありますので、いずれの国においても構造改革をさらに進めて潜在成長能力を引き上げていく努力をしっかりとやっていき、さらに、物価安定をしっかりと確保する適切な金融政策の運営が重要であるということが、今回のコミュニケの中でも明確にうたわれているところであります。

私からは、2 月の金利の変更について説明しました。この措置は、長い目でみて、資金や資源の効率的な配分を実現し、つまり非効率な配分を防いで、物価安定のもとでの持続的な成長を保証していく、安定的な成長の実現に資するものとして実施したと説明しました。先行きの政策運営についても、これまでと同様の考え方に立って、経済・物価情勢の変化に応じて、徐々に金利水準の調整を行うことになるかと述べました。コミュニケに盛られた金融政策についての考え方と平仄の合うものだと説明したつもりです。

(以下質疑)

【問】 2月末に上海市場発で世界の同時株安が起こりました。その後の市場の動きをどのように評価されていますか。また、会議ではどのようなコンセンサスが得られましたか。

【答】 2～3月の調整は市場の中でのリスクの自律的調整であって、世界のいずれの国の経済においてもファンダメンタルズに悪い影響を及ぼしておらず、そういう意味では、健全な調整として 終わったかどうかまだわかりませんが 今日まできているという感覚であったと思います。

以 上